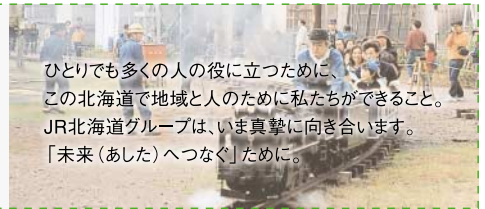


あした 未来へつなぐ

【社会貢献】



ひとりでも多くの人の役に立つために、
この北海道で地域と人のために私たちができること。
JR北海道グループは、いま真摯に向き合います。
「未来(あした)へつなぐ」ために。

文＝本間 吾里砂



初の公募型コンペで376の応募の中から選ばれたワークヴィジョンズの提案をカタチにした岩見沢複合駅舎。岩見沢市の有明交流プラザと有明連絡歩道が配置されている。

世界の鉄道分野で最も権威ある 国際デザインコンペティションに挑戦！ 岩見沢複合駅舎が『第十二回ブルネル賞』を受賞



九世紀にイギリスで設立されたグレート・ウエスタン鉄道の技師であり、発明家および建築家でもあったイザムバード・キングダム・ブルネル。その名に由来する『ブルネル賞』は、世界約二十カ国の鉄道デザイン関係者で構成されるワトフォード・グ

ループにより、一九八五年に創設されました。鉄道分野では最も権威ある賞として知られ、鉄道に関するあらゆる分野のデザイン・クオリティの向上を目的に、二〇一三年おきに国際デザインコンペティションを開催しています。

第十一回目を迎えた今年には、公共施設を併設したJR北海道の岩見沢複合駅舎が、優秀賞に当たるブルネル賞を受賞しました。今回は十五カ国・四十三の鉄道会社から百五十件の応募があり、駅舎部門、土木構造物部門、ポスター・グラフィックアート部門ほか、五部門合わせて二十件にブルネル賞、二十四件に奨励賞が贈られました。

平成二十一年三月三十日に四代目の駅舎として誕生した岩見沢複合駅舎は、それまでの駅づくりとは異なり、JRグループでは全国初となった公募型デザインコンペを実施したのをはじめ、さまざまな試みにチャレンジしています。中でも代表的な取り組みとなったのが、“刻印レンガ”です。世界中から募った四七七名の参加者の名前が刻まれたレンガと古レールを用いたデザインは、鉄道のまちとして発展してきた岩見沢市が表現されています。約百枚の吹き抜け空間は、夜ともなれば暖かな光を周囲に放ち、日中とは



(右下)約100mの吹き抜け空間。
(左)古レールと刻印レンガ。



米ワシントンD.C.で行われた授賞式にはJR北海道から4名が参列し、受賞プレートなどを受け取ってきた。

また違った表情を見せてくれるのも特徴的。建築・デザイン面だけでなく、地域住民により関連イベントなども行われ、駅づくりは市民を巻き込んだのまちづくりへと発展していきました。そうした点が評価され、国内でも日本産業振興会主催のグッドデザイン大賞や日本建築学会賞など、全部で十一個もの賞を受賞。JR北海道では、ブルネル賞についても、デザインとともに取り組みの内容が評価される結果ととらえ、今後の駅づくりに生かすことで次なるブルネル賞の受賞を目指していきます。

